長崎県における乳がんについて

吉田 匡良* 葉山 さゆり 副島 幹男 谷 彰子 山川 さゆみ
稲田 幸弘 武田 靖之 早田 みどり 陶山 昭彦 池田 高良

1. はじめに

長崎県の地域がん登録事業は、昭和 58 年に施行された「老人保健法」を基にした国の第１次対がん 10 ヶ年戦略と連動する形で、国からの要請を受けて昭和 59 年から開始された。登録業務は県から委託された㈶放射線影響研究所が行なっている。

2. 対象と方法

1985 年から 2000 年の 16 年間に長崎県がん登録に登録された女性の乳がん症例 6002 例について、年齢層別の罹患状況、病巣の拡がり、発見の動機等について調べた。なお、男性の罹患数は、16 年間で 54 例であった。

3. 結果及び考察

長崎県における部位別罹患数の割合は下表のとおりである。女性の乳がんが全がん中 15%を占めていた。乳がんは 1999 年に初めて第 1 位となり、それまで 1 位だった胃がんは 3 位に後退している（表 1)。

主要ながんについて年齢調整罹患率の年次推移を全国推計値と比較してみると、胃がんを除きいずれも同じような増加傾向が見られた。1996-2000 年の 5 年間の累計に基づき、罹患数の年齢分布を調べると、乳がんには大小 2 つの

表 1. 部位別罹患数（2000 年）

	男性（総数4547件）		女性（総数3495件）	
1位	胃	20%	乳房	15%
2位	肺	16%	結腸	14%
3位	結腸	12%	胃	13%
4位	肝臓	7%	子宮	9%
5位	直腸	7%	肺	8%
6位	前立腺	7%	直腸	7%
7位	膀胱	4%	皮膚	5%
8位	膵臓	3%	肝臓	4%
9位	食道	3%	胆嚢・胆管	4%
１０位	悪性リンパ腫	3%	悪性リンパ腫	3%

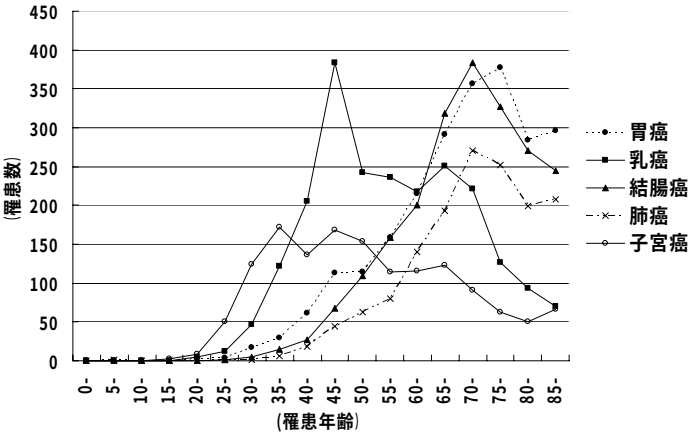

図 1. 年齢階級別罹患数（1996-2000 年）

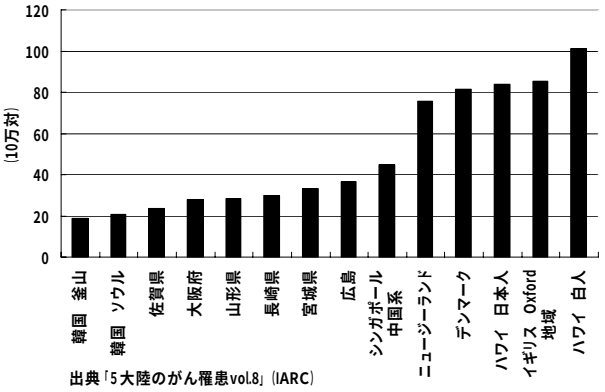

図 2. 国内及び他国との罹患率の比較（1993-1997 年）

*㈶放射線影響研究所 疫学部腫瘍組織登録室（長崎県がん登録室）
〒850-0013 長崎中川 1-8-6

山が見られた。ピークが 45-49 歳で、次の山が 65-69 歳であった（図 1）。

国内及び外国と年齢調整罹患率を比較してみると、アジア地域よりも欧米の方が高くなっていた（図 2）。

宮城県・山形県・大阪府・長崎県と、ハワイ・サンフランシスコ在住日本人の年齢階級別罹患率を比較した。ハワイ・サンフランシスコは 70 歳代にピークがあり、国内は大阪府を除き 45-49 歳にピークがあった（図 3）。

初めてがんと診断された時の病巣の広がりは不明を除く全体の 55.3%が乳管内がんを含む限局型で、リンパ節転移有りが 33.1%、隣接臓器浸潤が 6.6%、遠隔転移有りが 5%であった。年齢別では高齢者に限局型が比較的多くみられた。（図 4）

発生部位では左右に差は見られず、外側上部が約 38%と多かった。全年齢層を通じて、しこりを自分で見つけたなどの自覚症状があったケースがほとんどで、不明を除いた全体の 9 割を占めた。この中には自覚症状があって検診（健診）を受けた人も含まれており、その割合は約 22%であった。（図 5、6）

罹患数に増加傾向が見られ、今後も増加するものと考えられる。発見の動機の 9 割が自覚症状という結果から、日頃の自己チェックと定期的な乳がん検診が重要と考えられる。

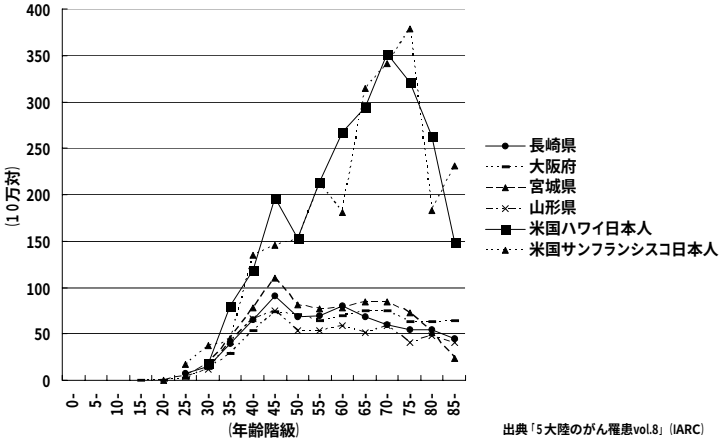

図 3. 年齢階級別罹患率の比較（1988-1992 年）

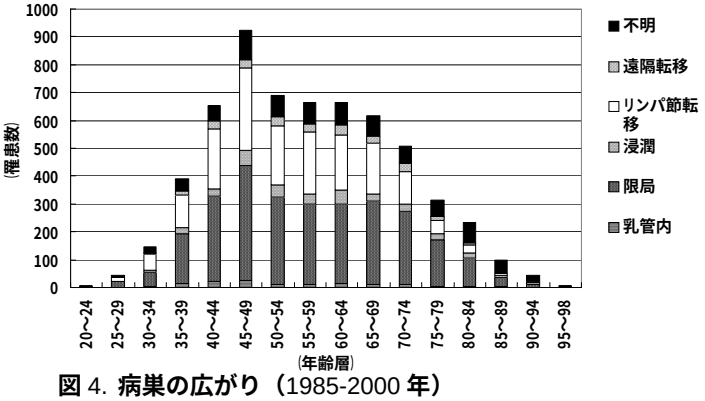

図 4. 病巣の広がり（1985-2000 年）

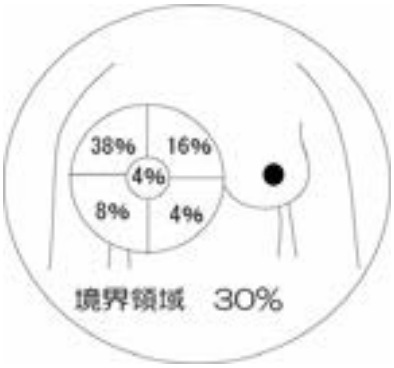

図 5. 発生部位

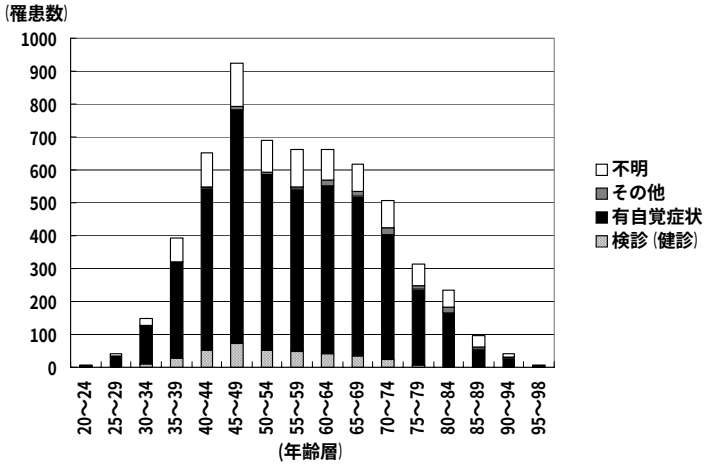

図 6. 発見動機（1985-2000 年）